

第2章 7 ハザードマップの活用

自分が住んでいる地域には、どのようなハザードマップがあるのでしょうか。
また、ハザードマップを生かして、どのように災害に備えておけばよいのでしょうか。

知ろう おこ

ハザードマップとは、どのようなものなのでしょうか。

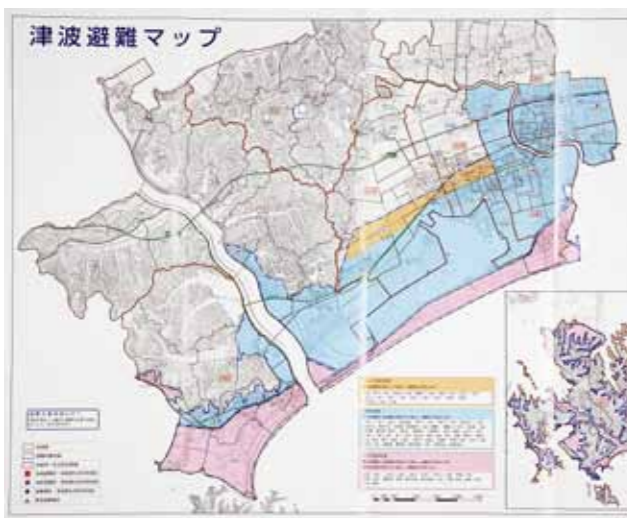
ハザードマップとは、これまでに起こった災害や土地の状況などをもとに、予測される被害の範囲などを地図に表したものです。災害の種類によって、さまざまなハザードマップが作成されています。

主なハザードマップ

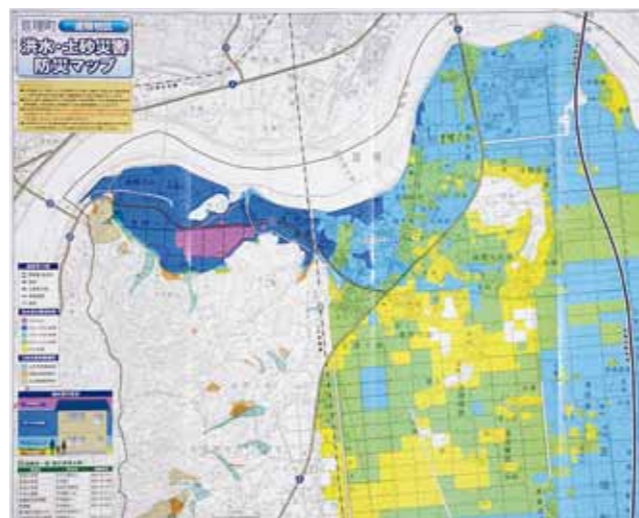
1	洪水	主に河川の氾濫により浸水する地域
2	土砂災害	土石流やがけ崩れなどの危険地域
3	地震	液状化現象の発生範囲、大規模火災などの地域
4	津波・高潮	津波の浸水地域や高潮のときの通行止めなどの地域
5	火山	火口が現われるところや溶岩が流れたり、火山灰が降ったりする地域

調べよう

自分が住んでいる地域のハザードマップには、どんなものがあるか調べてみましょう。



東松島市 津波避難マップ



わたらい 巨理町 洪水・土砂災害防災マップ

つくろ みよう

「わたしたちのハザードマップ」

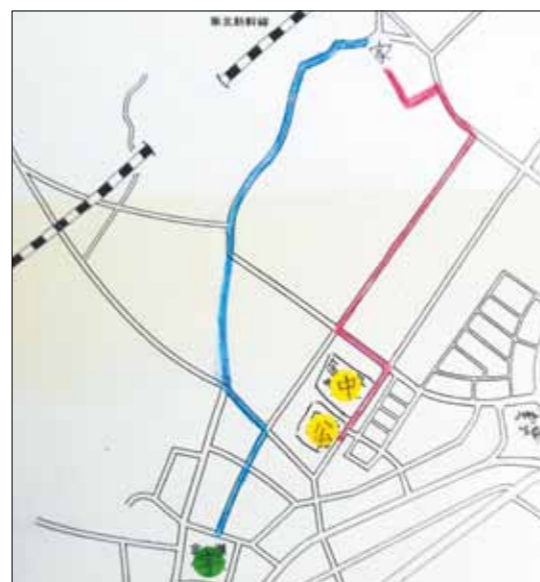
市町村がつくっているハザードマップを活用して、自分の住む地域にどのような災害が予想されているかを知り、安全な避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

わたしたちのハザードマップ



学習の流れ

- ①自分が住んでいる地域にどのようなハザードマップがあるかを知る。
- ②学習するハザードマップ（例：洪水・土砂災害）にはどのようなことが書かれ、どのような地域に危険があるかを知る。
- ③ハザードマップを参考にして白地図に自分の家や学校、避難場所に色分けしたシールをはる。
例・自分の家（白色のシールに名前記入）
・学校（緑色のシール）
・避難場所（黄色のシール）
- ④ハザードマップを参考にして白地図に自宅からの避難経路を赤ペンで書く。
- ⑤ハザードマップを参考にして白地図に登下校中の避難経路を青ペンで書く。
- ⑥想定をこえる場合に備えて、複数の避難経路を書く。
- ⑦学習を通して学んだことを発表する。



作った「わたしたちのハザードマップ」をもとに、実際に歩き、避難経路や避難場所を確認してみましょう。

災害の種類によって、避難場所や避難経路もちがってくることもあるね。



広げよう

完成した「わたしたちのハザードマップ」を使って、家族みんなで安全な避難について話し合みましょう。

ハザードマップの想定をこえる災害になることもあるので、より安全な場所に避難できるようにしておくことが大切です。